

### 子育て世帯への国民健康保険税の減免拡大を

伊藤初美議員

**問** 国民健康保険税は他の健康保険と比較して、家族が多いほど均等割の負担が重いのではないかと。

**答** 他の保険である協会けんぽなどは、均等割負担を求めている。国民健康保険は加入者の所得が低く、高齢者が多いことから医療費が高いという構造的な問題をかかえている。

**問** 第2子から均等割の減免対象にできないか。

**答** 対象者数は15466人、減免額は約5580万円となる。この額を国民健康保険税で賄うのは難しいと考える。

#### 除雪対策

**問** 市による除雪の現状と課題は。

**答** 坂道や歩行者の安全対策として、凍結すると危険な箇所から優先に

行っている。市職員のかに、委託業者による除雪や融雪剤の散布で対応している。初動対応が重要だと考えている。

#### 土地開発公社所有の土地活用

**問** 上福岡駅西口階段下の土地の有効活用を。

**答** 東口整備計画の進捗に合わせて検討し、東武鉄道と協議していく。



上福岡駅西口

**問** 認定基準を生活保護基準の1.5倍にできないか。また、クラブ活動費の額も国基準の2万9600円に合わせて引き上げを。

**答** 現行の1.3倍という基準は他市町並みで、妥当と考えている。クラブ活動費は、市内中学校の部費等を調べ1万円を限度としている。

#### 私道の街灯設置などで準公道方式の復活を

**問** 私道における道路改修・補修・道路照明・交通安全施設の対応に、旧市町で行っていた準公道

方式の復活を。

**答** 現在は寄附採納をしていたら、道路認定をした後に市が維持・補修などを行っている。

#### 住民の選挙権を保障するための施策

**問** 病院施設等での投票や、郵送による投票等機会の拡充を。

**答** 県選管が指定する市内の施設は、現在2つの病院と5つの高齢者施設がある。市選管としては、制度の積極的周知を図る。また、郵便等による不在者投票についても啓発や周知に努める。



### 就学援助制度の拡充を

足立志津子議員

**問** パブリック・コメントを、生きた制度に改善すべき。

**答** さらに有効なものにしていくため、市民の理解を深めより多くのご意見をお聞きし、市政に反映できるような方策を研究していきたい。

### パブリック・コメントの改善

塚越洋一議員

西側に3基目の整備を進めている。県と河川・下水道事業調整協議会を設置し、国及び近隣市町とも協議調整に取り組んでいく。

#### 労働行政の充実を

**問** 労働者の権利学習の推進を。

**答** 労働者の権利等について学習と理解を深めることが必要と位置付けられている。労働者に対する講習会等の開催について研究していく。

#### ホンダ移転への対応

**問** ホンダ狭山工場の移転への対応を。

**答** 市内から多くの方が勤めていることが想定され、動向が懸念される。相談がある場合には、県と連絡を取り対処方法を検討していく。

#### 雨水の流出抑制対策

**問** 調整池などの整備を国・県と協力し推進を。

**答** 上流に調整池を整備することは効果的な手段と考える。関越自動車道

### 小学校へなだらかな連結を

小林憲人議員

**問** 小学校入学時、集団行動ができないなど、学校生活になじめない状態の続く児童が全国的に増え、小1ギャップと呼ばれる。対策は。

**答** 幼稚園・保育所と小学校の交流を可能な範囲で行っているほか、子どもへの支援に係る情報を共有し、未然防止に努めている。

#### 中小企業振興基本条例の制定を

**問** このまちで起業したいと思う気運や市のイメージなど、目に見えない効果もある。考えは。

**答** 行政の責任が明確になり、起業の気運にもつながる。設置に向け検討が必要と考える。

#### みんなで創ろうきれいで安全なまちを

**問** きれいなまちやごみ量削減につなげる、ごみ拾いアプリの導入を。

**答** 導入に向け検討を重ねている。不法投棄の多い場所の把握、空き地の管理などにも活用したい。



新河岸川周辺のごみ拾い活動

#### 地域探訪

## 平和への祈りを込めて語り継ぎたい当時の記憶

編集委員が訪ねました

昭和12(1937)年から昭和20(1945)年の太平洋戦争の終戦まで、現在の福岡一丁目から上野台団地一帯には、陸軍軍需工場の造兵廠(通称「火工廠」)がありました。旧火工廠について、後世に伝える活動をしている有志の方々にインタビューをしました。



志摩 頼子さん 富田 竹雄さん 熊谷 洋興さん

**問** 火工廠について教えてください。

**答** 第2次世界大戦中、市の中心部に旧陸軍造兵廠川越製造所がありました。火薬を取り扱う工場があったことから、通称で火工廠と呼ばれていました。

**問** 何が製造されていましたか。

**答** 戦闘機や対空機関砲用の機関砲弾や大戦末期には、風船爆弾・陶製手りゅう弾などもつくっていました。

**問** 当時、何人位が働いていましたか。

**答** 最盛期には、約55ヘクタールの敷地に700棟の

建物があり、約5千人が働いていたとされています。

**問** 後世に伝えていきたいこと、残していきたいことは。

**答** ここで、爆弾が製造されていたことや、製造に当たり事故で若くして亡くなられた人がいたことなどを知ってほしいです。戦争の記憶が薄れていく中で、改めて命の大切さや平和で暮らすことの有り難みを感じてほしいですし、このことを後世の人たちに語り継いでほしいです。